

高千穂神社：夫婦杉

日本杉は「クリプトメア・ヤポニカ *cryptomeria japonica*」との学名からも分かる通り、日本原産の品種である。心地良い香りと赤みがかったピンク色の木が特徴で、その耐虫性、耐久性ゆえ、神社の屋根から家具、酒樽まで、幅広い用途に重宝されている。屋内で羽目板として使われることもあれば、寺社仏閣の参道に日除けや景観美のために植えられることもある。これらの杉が高く真っ直ぐそびえ立つことで、精神が自然に満たされるような感覚を演出している。神社神道では、わら作りのしめ縄が神聖な場所を示す目標として用いられる。しめ縄が木や特定の地点の周囲に掛けられ、「しで」と呼ばれる三角形の紙または乾草が縄から垂らされる。神社の場合、縄の太い側を右に張るのがしきたりだ。二本の杉の木がより合わさった夫婦杉は、高千穂神社の境内の地中に共通の根を張り、夫婦が抱擁するか手を取り合うような形に絡み合って成長してきた。参拝客は、愛する者と手を繋いでこの夫婦杉の周りを三周回ると、家庭円満、家内安全、無病息災、子宝祈願などのご利益があるとされる。ただし、回っている間に木の根につまづいた者にはご利益が無くなってしまうので、注意したい。